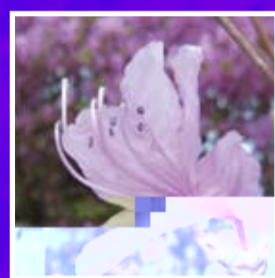


Hiroshima University Alumni Association

広島大学校友会・だより

Phoenix Club



贈る言葉

先輩から

旅行先で、長崎大学の『医学展』を見て
広大でもこんなことをやりたいと企画しまし
た。手法がまったく分からないので、長崎大
学医学展の実行委員長に聞いたり、東京の
先生に直接電話して出演交渉したり、マー
ケットリサーチの会社に頼み込んで、アン
ケートをとって分析する方法を教えてください
たり……。手探りだったけど、楽しかった。
その時の経験から得た考え方や手法は、そ
の後の仕事でも役に立ちますよ。

『広島大学医学展』を実現

今になって、もうちょっと勉強しておけば
よかったと思いますが、真面目にノートを取
っていた人だけが、必ずしも信頼できる医
者になっているわけではない。大学で学ぶこ
とは、教室だけにあるんじゃないですよ。

学生時代って、お金はないけど、時間だ
けは贅沢にありますよね。アルバイトをし
て、そのお金でコンサートに行ったり旅行
したり、私、そんなことはばかりしていま
した。でも、そのおかげで、社会のいろい
ろなことを勉強できました。授業では習わ
ないような。

授業では学べないこと



ムダな経験なんてない

どんなことでも、ムダな経験なんてあり
ません。役所は2年程度で異動がありま
すが、私は、どの仕事も楽しかった。知識
や人脈も、そのたびに広げることができ
ましたし。

例えば、関西空港検疫所長として勤務
していたとき、エボラ出血熱の患者さん
を隔離するウガンダの病院に行くことにな
った。「大変だねえ」と同情されましたが、
私はうれしかった。エボラ出血熱の患者さ

教室外での経験を。

篠田プラズマ株式会社 代表取締役会長兼社長

篠田 傳さん（1971年 工学部電子工学科卒業）

夢は、必ずかかないます。



篠田傳さんプロフィール
1971年 広島大学工学部卒業。1973年 広島大学工学研究科修士課程修了後、(株)富士通に入社。1992年、世界初21型フルカラープラズマディスプレイ開発に成功。東北大学電気通信工学博士課程修了、工学博士。2003年から3年間、東京大学客員教授。紫綬褒章、内閣総理大臣発明賞、科学技術庁長官賞など内外の多数の受賞歴がある。2005年、篠田プラズマ(株)を起業する。

「プロフェッショナルとしての生みの親」として知られる篠田傳さん。紫綬褒章をはじめ内閣総理大臣発明賞やIEEE名誉会員賞などを受賞し、NHKの『プロジェクトX』で紹介されるなど、「エンジニアの最高峰」に立つ一人です。

その篠田さんが、富士通研究所フェローの職を辞して、自ら興したベンチャー企業の経営者に転じたニュースは業界の話題をさらいました。しかし、今でも、「現役エンジニア」であることに変わりはありません。世界初の巨大ディスプレイの実現を目指して、若い社員といっしょにエネルギーギッシユな活動を続けています。

「広大工学部受験は「サクラチル」

ぼくは電子工学科の第一期生なんです。でも、高校の先生に相談したら「お前が通るわけない」と大敵判を押し付けてしまいました(笑)。それで、工学部の中では比較的易いと言われていた船舶工学科を受験するつもりで行ったんです。そして、試験会場で電子工学科の受験生を募集しているじゃないですか。募集の手続きが遅れていたんでしょね。もともと行きたくった学科ですから、その場で志望変更してしまっただけです。



ところが発表の日、届いた電報は「サクラチル」。悔しくてね、来年はゼツタイ合格してやると思っていたら、次の日、新聞の合格者欄に名前が出ていた。よく考えたから、ぼく、船舶工学科の受験票をアルバイトの学生に渡して

夢はどんどん成長する

ぼくだって、最初からプラズマをやりたいと思っていたわけじゃない。大学、大学院と、わからないまま一生懸命勉強しているうちに、指導して下さる先生と出会い、富士通に入社して与えられた仕事をしていくうちに、「プラズマが夢」と言えるようになっていったんです。

それに、夢はどんどん広がっていきます。「フルカラーのプラズマディスプレイを作りたい」という夢を実現したら、それで終わりというわけじゃない。その向こうに、次々に新しい夢が見えてくるでしょう。

今の夢は、壁一面の巨大なプラズマディスプレイに、例えば海外に居る人が等身大でクリアに映っていて、あたかも目の前に居るように話せる——そういう未来を、篠田プラズマのみんなの手で創っていくことですね。

成功するための5つの言葉

ぼくは講演の時、5つの言葉で締めくくります。ぼくの経験に基づいて、成功の秘訣です。

まず、「夢は育むもの」。次は「成功を信じる」。そして「やってみる」。夢を育む過程で、いろいろ経験し、考え抜いているから、これは盲信したり無鉄砲にやるというのとは違います。でも、実際にやってみたら、ほとんど失敗する(笑)。そのとき、失敗の原因を、考えて、考えて、考え抜く。「これが大事です。いつも考えていると、何かの拍子にヒントが見つかるんです。考えていないと、失敗は失敗のまま。そういうものです。考えて、また挑戦してみる。そして、また失敗する。時々、ちよこつと成功するけど、次の課題が見えて、やってみると、また失敗する。この繰り返し。ここで、だいたい皆さん、あきらめちゃうんです。だから5つ目は「あきらめない」。

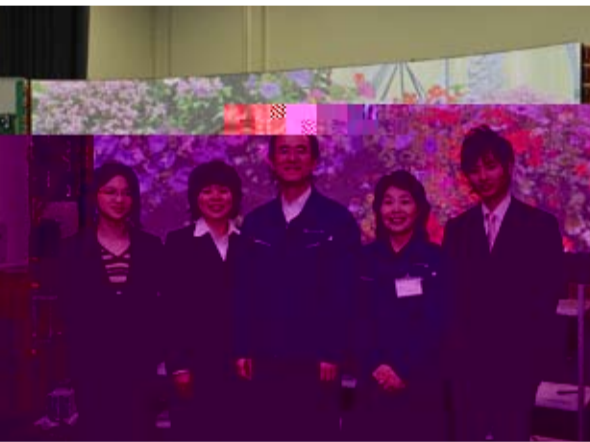
ノーベル賞をもらった人たちが、みんな同じことを言ってますね。「努力して、あきらめない」。ぼくの場合はプラズマという目に見える製品だったけど、何でも同じ。失敗を繰り返して挫折感を味わいながら、わずかな前進を感じて成長していくんじゃないでしょうか。



洋子夫人は広島大学教育学部の卒業生。教員として兵庫県の教育に携わってきた。今は、篠田社長の「ビジネスパートナー」だ。



篠田さんの信念、「技術は愛」。新しい技術の背景には、さまざまな人のサポートがあるという気持ちを表現している。
篠田プラズマ(株)
篠田さんが、富士通研究所の6人の技術者と資本金1000万円で立ち上げたベンチャー企業。「薄い、軽い、省電力の超大画面フィルム型ディスプレイ」を目指して『SHIPLA(シプラ)』のブランドを立ち上げた。2008年10月末現在の資本金は約5億円に拡大している。
〒650-0047 神戸市中央区港島南町4丁目6-7
TEL 078-302-1728



篠田プラズマに展示された3m x 1mのディスプレイの前で。これで画面の厚さはなんと、1mm! これなら曲面ディスプレイも可能だ。

篠田さんの広大生時代



プラズマとの出会いは広大。3年生の秋、当時流行していたシリコンの研究をしようと所属研究室を探していた篠田さんに、「流行を追って世界一にはなれない。人がやらない壁掛けテレビをやろ」と声を掛けたのが当時講師だった内池平樹先生。その言葉が現実になった。マンドリン部ではコンサートマスターを務めた。血まを流しながら練習をした夏合宿は、忘れられない思い出。50人も入った1年生がこの合宿で半分は減るといっくらいのハードな合宿だが、「こそ真面目でヘタクソだったから残ったんです」。

表紙「贈る言葉」取材を終えて



「既成のイメージは脇に置いて、ものごとの一つひとつを、自分の経験の秤にのせて判断する」—— 上家先輩は、そうやって計り続けてこられたのですよね。自分の手で人生を拓いてこられた方の言葉には説得力があります。

山元(文学部) どんな仕事でも、上家さんのようにポジティブな受け止め方をしてその仕事を楽しいものに変える力は、人生を豊かなものにする秘訣なのかなと思いましたが、僕もそういう意識を持ちたいと思いますが、簡単ではないですよ。竹本(総合科学部) 役人になりたくて、突然後輩に手紙で質問したり、アポもとらず厚生省を訪ねたり……パワフルなエピソード満載! 特に圧倒されたのは、底抜けの明るさです。これがパワーの源なんですね。私も元気をいただきました。竹本(法学部) どの経験も笑顔で「楽しかった!」とお話になる上家先輩、どんな局面でも主体的に考え、行動してこられたことが、この笑顔につながっているのですよね。将来の、財産になるように、私もいろんなことに挑戦していきます。

先輩から

先輩インタビューを終えて



山元(文学部) すこい発明をされた先輩だけに、「失敗してもあきらめないで続けられれば夢は実現する」という言葉には、とても説得力がありました。僕も就職活動などでくじけそうな時にこの言葉を思い出して頑張ります。

尾崎(教育学部) どのやったら夢が見つかるのだからと、私も思っていました。「ハツと掴むものではなく、育むもの」という篠田先輩の言葉に納得しました。まずは一生懸命やることなんです。ね。

小員(法学部) 夢をあきらめたことのある私にとって、篠田さんのお話は耳に痛いものでした。でも、同時に新たな夢に出会える可能性も教えていただけました。次の夢を見つけた時には、余計なことを考えずその実現を信じようと思います。

